

## 花

八田恭

人は花のうたを  
歌わなくなった。

忘れてしまったのだ。

花が

時のすべてをついやして  
祝福のくちづけをするために  
そこに咲いていることを

忘れてしまったのだ。

花が

遙か遙か遠くから  
「さよなら」を言うために  
そこに咲いていることを 愛

無窮なる大河のほとぼしり

血のごとく

涙のごとく

いのち

花を

歌いたい。

愛を いのちを

歌いたい。

歌いたい、私は。